

令和元年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立城南中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成31年4月18日(木)

■ 調査の対象学年

中学校3年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、数学、英語)

- ・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例)国語・英語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

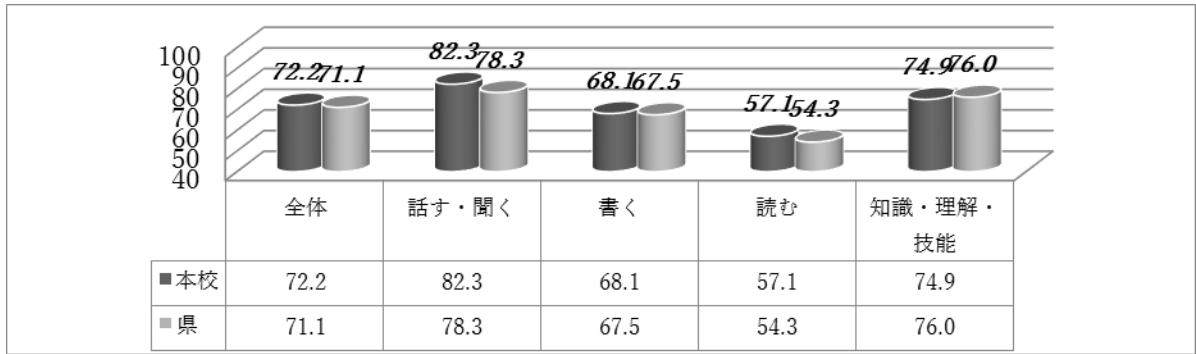
■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と数学、英語に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■調査結果及び考察

国語（1年）

(1) 結果



- 「知識・理解・技能」の領域において県平均1ポイント下回っている。他の領域は県平均を上回っている。
- 文章を正確に読み取ることを苦手とし、内容ごとのまとまりを意識して文章を読むことができていない。
- 「話す・聞く」「書く」「読む」は、おおむね達成を超えており、今後は「知識・理解・技能」の力を身につけさせ、他の領域の基本となる力の向上につなげたい。

(2) 考察、課題と学校での取り組み

話すこと・聞くこと <small>（目的や場面に応じて、筋道を立てて話したり聞き取ったりする力）</small>	
考察	・目的の意図に応じて、工夫して話すことができています。
課題	・相手の意図を考えながら聞くことに課題が残る。
対策	・授業で得た技術を使って自分で文章を書く。 ・短い時間(内容)のスピーチや話し合い活動または互いに質問や説明を行うなど、主体的に話したり聞いたりする経験を積み重ねる。
書くこと <small>（相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章に書く力）</small>	
考察	・目的や意図に応じて、自分の考えを書くことや、心情描写をとらえることにやや苦手意識をもっているようであるが、そのほかはおおむね達成できている。
課題	・条件に合わせて文章を書くことに課題が残る。 ・文章を書くという経験を数多く積む必要がある。
対策	・問題に対して、正しく理解し、目や意図にあった内容をきちんと表現できるように、書く機会を数多く設ける。
読むこと <small>（目的に応じて様々な文章を読み取ったり、読書に親しんだりする力）</small>	
考察	・読むことに関しては、県平均を超えているが、到達状況は十分ではない。自分の考えを明確にできてはいるが、文章の内容を的確に押さえることができていない。
課題	・文章題を注意して読み、内容を的確に整理し、把握することに課題がある。
対策	・形式段落、意味段落ごとの内容整理が的確にできるような学習を行う。
伝統的な言語文化と特質に関する事項 <small>（音声、語句・語彙、文法、文字を正しく整えて書く力）</small>	
考察	・文脈に即して漢字を正しく使う力が十分ではない。文の成分を正しく把握できていない。
課題	・文法を理解し、文脈の中で適切に言葉をつかう語彙力と漢字の知識を育成する必要がある。
対策	・継続的な漢字学習と漢字をきちんと使った文章を書くようにしていく。

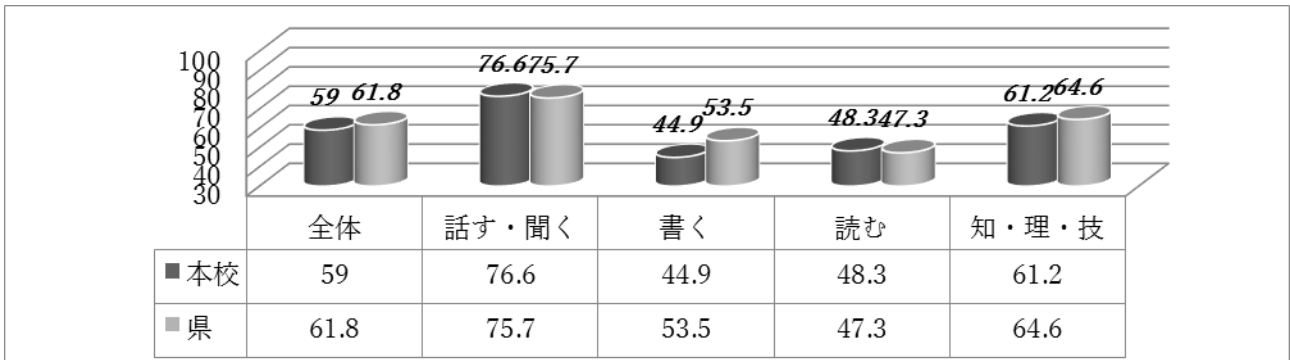
ご家庭へのお願い

- ① 文章を読むことで要点や話者の意図をとらえられるようになり、子どもたちにとって大切な読解力につながります。新聞やニュースの内容、学校での出来事などを話題に、できるだけご家庭で会話する機会をつくっていただきたいと思います。
- ② 日記を書くことや時間を決めて短時間の読書をすることによって、文章を書く力や知識、国語に関する理解力が高まると思われます。

■調査結果及び考察

国語（2年）

(1) 結果



- すべての項目において、県の結果を下回っている。特に「書く」の領域に課題が残る。
- 昨年度の課題であった、「話す・聞く」「読むこと」が改善されている。
- 「話す・聞く」「読むこと」の領域では、おおむね達成を超えているが、十分達成には10ポイント以上の開きがある。

(2) 考察、課題と学校での取り組み

話すこと・聞くこと <i>（目的や場面に応じて、筋道を立てて話したり聞き取ったりする力）</i>	
考察	・基本的な内容は全般的に良くできているが、まだ活用力が弱い。昨年度よりかなり改善している。
課題	・話し合いの内容を正確に捉えながら、自分の考えをまとめ、目的に応じた話し方や聞き方を工夫することに課題が残る。
対策	・結論（意見）に対して論拠を明らかにするだけでなく、理由付けをきちんと行い、相手によりの確に伝わるように心がけさせる。学び合いの機会を増やし、伝え合う力を育てること。
書くこと <i>（相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章に書く力）</i>	
考察	・書くことに対して苦手意識をもつ生徒が多いようである。文章を整理して書く力の育成が求められる。
課題	・集めた材料を整理したり、読みやすくわかりやすい文章を作ったりする力が求められる。
対策	・課題に対して、適切な材料を集め、主体的に考察する場を作る。書く活動の前後に話し合いの場を設定し、意見の交流を通して改善させていく。
読むこと <i>（目的に応じて様々な文章を読み取ったり、読書に親しんだりする力）</i>	
考察	・読むことには抵抗なく取り組むことができる生徒が多いが、描写に注意を払いながら内容を理解し、自分の考えを持つところまでには至っていない。
課題	・文章表現の特徴を理解し、自分の考えを持たせるために、読み取りやすい文章から段階的に取り組む手立てをとる。読むことに抵抗がある生徒の底上げを行う必要がある。
対策	・朝の読書活動を継続して行う。読むことの基礎となる、言語事項の指導の場を増やすことで文章を正しく読む力を育てていく。
伝統的な言語文化と特質に関する事項 <i>（音声、語句・語彙、文法、文字を正しく整えて書く力）</i>	
考察	・文脈に合わせた漢字の読みはできているが、正しく書く力が十分ではない。
課題	・漢字学習をはじめ、文脈の中における語句に関する知識、理解を深める手立てを、継続的に行う必要がある。
対策	・関心を持ちやすい題材を用意し、小テストをくり返すなどの指導を工夫する。家庭での反復学習のあり方などを考えさせ、生徒自身に応じた的確な学習法を身につけさせる。

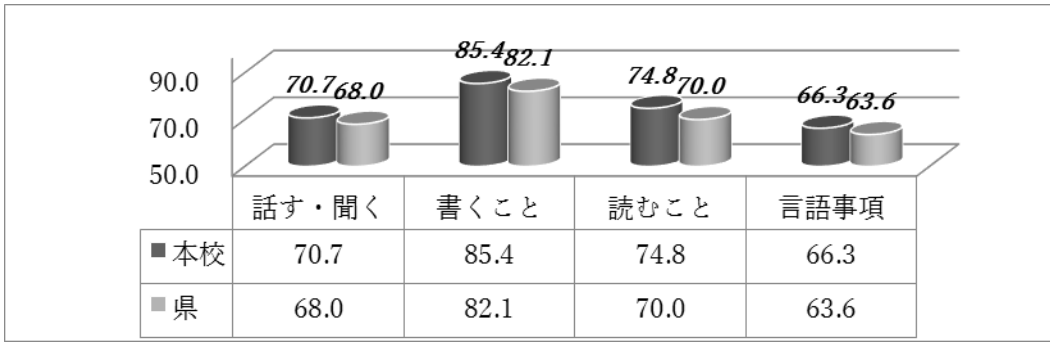
ご家庭へのお願い

- ① 漢字の書き取りを課題としています。毎日こつこつ書くように励ましてください。
- ② 新聞やニュースに触れる機会をつくり、子どもとの会話から、考えていることを聞く場面を増やしていただきたいと思います。新聞やニュースでの言葉を引用して会話できたときや、深く考えている思いが言葉になったときなどに、その確かな成長を承認していただけたらと思います。
- ③ 家庭での学習の習慣化のため、「時間・場所・もの」の確保にご協力ください。

■調査結果及び考察

国語（3年）

(1) 結果 国語



- 全ての項目において、県の平均を上回っている。
- 全国平均から見ると、「言語事項」の項目だけが平均を1ポイント下回っている。
- 「活用力」に課題が残る結果になっている。

(2) 考察、課題と学校での取り組み

話すこと・聞くこと (目的や場面に応じて、筋道を立てて話したり聞き取ったりする力)	
考察	・国語に限らず、授業や学校生活の中で「話し合い」「学び合い」を習慣的に行うことで効果が出ており、県平均を下回っていた1年時に比べ、かなり向上した。
課題	・「話し合いの話題や方向を捉える」ことが、全国平均に比べてやや低かった。 ・適切なものを選択できる力を養っていく必要がある。
対策	・話し合いや、学び合いを通して、相手の意図、相手の反応などを正しく受け止め、自分の考えに反映させていく学習を行う。
書くこと (相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章に書く力)	
考察	・全国・県を上回っている。「学び合い」の中で、書く力がついていると思われる。
課題	・伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くことに課題が残り、無回答の生徒も多く見られた。
対策	・「学び合い」「伝え合う」活動につながるように、根拠を示して書く場面を多く設定し、目的に応じて適切に書く力をつける。
読むこと (目的に応じて様々な文章を読み取ったり、読書に親しんだりする力)	
考察	・「読むこと」は全国・県ともに上回っており、情報を整理し、内容を捉えることができている。 ・朝読書で読書の習慣がついており、文章を読むことへの抵抗は少ない。
課題	・根拠を明確にして、自分の考えにつなげる力をさらに伸ばしていきたい。
対策	・授業の中で、視点を明確にしながら文章を読み取り、自分なりの気づきや考えをもたせる学習を行う。
言語事項 (音声、語句・語彙、文法、文字を正しく整えて書く力)	
考察	・言語事項に関しては、変平均を上回っているが、全国平均には1ポイント及ばない。
課題	・語の一部を省いた表現についての説明として適切な語を選ぶ問題に課題が残る。
対策	・授業や課題を通して、ことわざ、慣用句などを含め、語彙を増やしていく。 ・語句を文章の中で適切に活用する学習を行っていく。

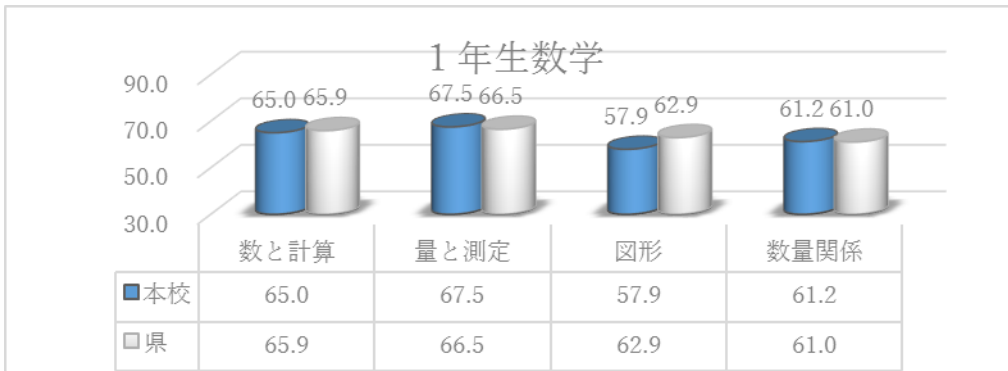
ご家庭へのお願い

- ①漢字の書き取りを課題としています。毎日こつこつ書いていくように励ましてください。
- ② 様々な文章に触れることが肝要です。読書、新聞など文章を読ませたり、読んだ後の感想を聞いたりしていただくことで、言葉も増え、考えを言葉にできるようになると思います。

■調査結果及び考察

数学（1年）

(1) 結果



- ・「量と測定・数量関係」の領域では、県平均正答率をやや上回っているが、「数と計算・図形」の領域では、県の正答率よりも下回っている。特に「図形」の領域では、「おおむね達成」の到達基準を下回っている。
- ・全ての設問において無回答率が低いため、意欲的に設問に取り組んでいると言える。

(2) 考察、課題と学校での取り組み

数と計算 （小数・整数・分数の混じった計算、分数のかけ算とわり算、文字と式など）	
考察	・基本的な問題は正答率が高い。
課題	・計算の仕方や意味を理解し、基礎・基本の計算力を身に付けること。 ・分数や小数の大小関係の比較や計算を苦手としている。
対策	・すすすくテストで基本的な計算練習を繰り返し実施する。
量と測定 （図形の面積、速さ、量と単位など）	
考察	・道のりと時間から速さを求める問題は正答率が高い。
課題	・仮平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を説明することを苦手としている。
対策	・活用問題を授業の中に取り入れる。
図形 （点・線対称の図形、縮図、円周の長さなど）	
考察	・全般的に図形の問題を苦手としている。
課題	・図形の計算問題や図形について数学的説明する問題を苦手としている。
対策	・数学的活動や言語活動を授業の中に取り入れる。
数量関係 （比、比例と反比例、並べ方と組み合わせ方など）	
考察	・比例の問題や、柱状グラフの特徴について、多くの生徒が理解できている。
課題	・示された情報を解釈し、その根拠を言葉や式を用いて説明する問題を苦手としている。
対策	・数学的な表現を用いて筋道を立てて説明し伝え合う活動を取り入れる。

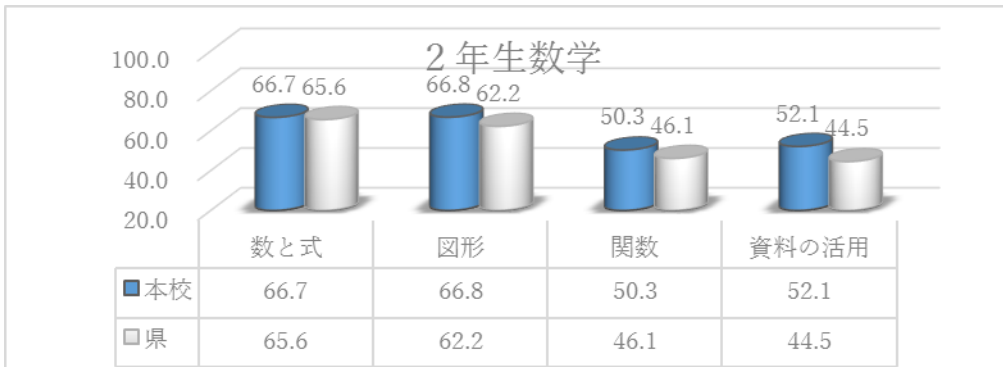
ご家庭へのお願い

- ・授業で取り扱った内容を、自学ノートや問題集などを活用して定着させるように励ましてください。
- ・日常生活のさまざまな場面で課題を発見し、数学を使って解決する機会をつくっていただきたいと思います。

■調査結果及び考察

数学（2年）

(1) 結果



- ・すべての領域で、県平均正答率を上回っている。
- ・ほとんどの設問においての無回答率が県の無回答率より低いいため、意欲的に設問に取り組んでいると言える。

(2) 考察、課題と学校での取り組み

数と式 (小数・整数・分数の混じった計算、分数のかけ算とわり算、文字と式など)	
考察	・基本的な計算問題は正答率が高い。 ・数量に関係を捉え、方程式に表したり、事象を数学的に表現したりすることを苦手としている。
課題	・数学的用語を使って説明すること。
対策	・定期的な小テスト、すくすくテストを実施する。 ・説明する授業を取り入れる。
図形 (平面図形、空間図形、おうぎ形の弧の長さや面積など)	
考察	・全般的に理解できているが、柱体の側面積の計算を苦手としている。
課題	・図形の中の長さや面積を求める計算が出来ること。
対策	・ワークやすくすくテストにおいて繰り返し学習する。
関数 (比例と反比例など)	
考察	・比例の関係をグラフや式に表せるが、意味を理解できていない。
課題	・関数の意味を理解し、説明できること。
対策	・グラフの意味を理解し、式と表とグラフを関連付けて考える授業を行う。
資料の活用 (度数分布表、ヒストグラムなど)	
考察	・ヒストグラムから度数を読み取ったり、相対度数を求めたりする問題は多くの生徒が理解できている。
課題	・代表値を基に、資料の傾向を捉え、数学的な表現を用いて説明すること。
対策	・説明する授業を取り入れる。

ご家庭へのお願い

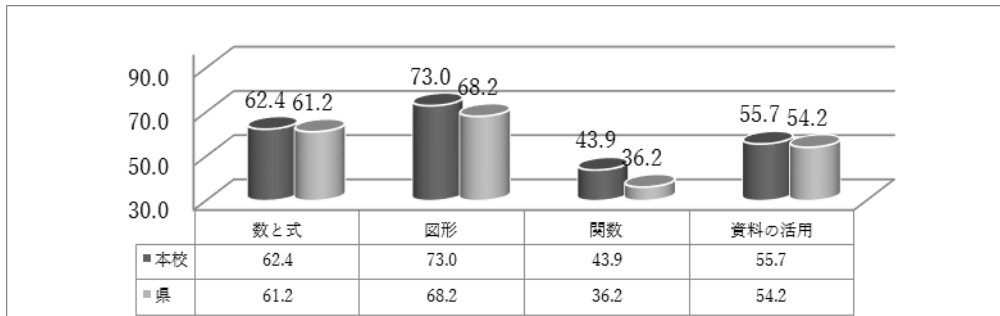
- ・授業で取り扱った内容を、再度、家庭で取り組んでいただきたいと思います。
 - ・日常生活の場面で、数学的な課題を見つけ、楽しみをもって一緒に考える機会をつくっていただきたいと思います。
- (建造物や物体から形の名称・面積・体積、時刻表から電車の平均の速さなど)

■調査結果及び考察

数学（3年）

(1) 結果

数学



- ・数学Aの「数と式」、数学Bの「数と式」「関数」では県の平均を上回っている。しかし、「資料の活用」の領域では、「おおむね達成」の到達基準を下回っている。
- ・全体的に無回答率が高く、特に記述式の問題形式の無回答率が高い。

(2) 考察、課題と学校での取り組み

数と式 (小数・整数・分数の混じった計算、分数のかけ算とわり算、文字と式など)	
考察	・基本的な計算問題は正答率が高い。
課題	・数量の関係を数学的な表現を用いて説明する問題を苦手としている。
対策	・小テストやすすくテストの中で、説明する問題を取り入れる。
図形 (平面図形、空間図形、おうぎ形の弧の長さや面積など)	
考察	・図形の基本的な知識については理解できている生徒が多い。
課題	・図形の関係を証明する問題を苦手としている。
対策	・すすくテストやワークを活用し、繰り返し学習を行う。
関数 (比例と反比例、一次関数など)	
考察	・与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができている。
課題	・変域や増加量を求めたり、関数の関係を数学的に説明したりする問題を苦手としている生徒が多い。
対策	・活用の問題を授業の中に取り入れる。
資料の活用 (度数分布表、ヒストグラム、確率など)	
考察	・中央値を求める問題は正答率が高い。
課題	・与えられた情報を分類、整理し、確率を求める問題を苦手としている。
対策	・日常生活の場面における確率の問題を授業の中に取り入れる。

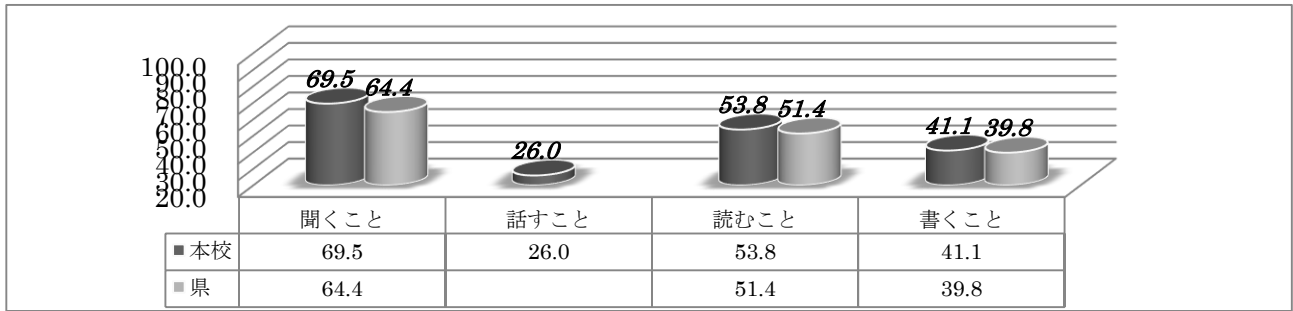
ご家庭へのお願い

- ・授業で取り扱った内容を、ワークや自学ノートを活用して家庭で復習をするように励ましてください。
- ・日常生活の場面で、数学的な課題を見つけ、楽しみをもって一緒に考えていただきたいと思っております。

(様々な建造物や物体から形の名称・面積・体積、時刻表から電車の平均の速さなど)

英語(3年)

(1) 結果



- ・「聞くこと」「読むこと」「書くこと」においては、県平均正答率を上回っている。
- ・全体的に、「正しい英文を書いたり話したりする」ことにおいて、改善が必要である。
- ・学力の二極化が見られるため、基礎・基本が定着するような授業実践や家庭学習が必要である。

(2) 考察, 課題と学校での取り組み

聞くこと	
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね全国より正答率が高い。 ・記述式の問題は無答率が高いが、正答率は県や全国の平均よりも高く、学力が二極化していると思われる
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・単語や英文を正しく書く力をつけることが課題である。
対策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中により多くの、様々な内容の英語を聞く活動を行う。 ・正しく書く力をつけるために、継続的な単語の練習、単語、英文の小テストなどを行う。
読むこと	
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね県平均を上回っているが、全国平均よりはやや落ちる。 ・無答率は低く、英文を読み、内容を理解しようとする姿勢が見られる。 ・説明文を読む問題の正答率が低い。物語文よりも苦手としている生徒が多いと思われる。また、記述式の問題においては、無答率と正答率が極端に下がっている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・特に説明文において、大切な部分をつかむ力に課題がある。 ・単語や英文を正しく書く力をつけることが課題である。
対策	<ul style="list-style-type: none"> ・物語や説明文の大切な部分を捉えるために、Q and A や T or F などの問題を解かせたり、書かれた内容について自分の考えを書いたり話したりするなどの活動を行う。
書くこと	
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・県平均よりも上回っているが、全国平均よりも低い値である。 ・記述式の問題は無解答率が高く、正答率も低い。書くことに対して苦手意識があると考えられる。 ・与えられたテーマについて、まとまりのある文章を書く問題において、無解答率は県平均や全国平均よりも低く、表現しようという姿勢は見られるが、正答率の低さから見ると、正しく英文を書く力が不足していると思われる。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・単語や英文を正しく書く力をつけることが課題である。 ・文法の定着が確実ではない。
対策	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なテーマについて、自分の考えを書いたり、話したりする活動を行う。 ・過去に学習した文法項目を、スパイラル的に繰り返し使用し、復習しながら定着させるような手立てを行う。 ・正しい語彙の定着のために、授業と家庭学習がリンクされるような手立てを取る。
話すこと (参考値)	
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・どの設問においても無解答率は低く、応答しよう、表現しようとする意欲は高いと思われる。ただし、正しい英文で応答できていない模様である。 ・絵の状況を現在進行形を使って表現する問題については、全国平均を上回っている。 ・会話を聞いて、即興的に質問をする問題については正答率が低い。 ・授業で取り扱いの少ない話題については正答率が低く、語彙の定着が不十分であると考えられる。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての領域に共通することであるが、正しい語順、正しい文法で英文を作る力に課題がある。
対策	<ul style="list-style-type: none"> ・即興的な会話に対応できるよう、Daily Conversation を授業中の帯活動に取り入れる。 ・Picture Describing や Q-A Making を効果的に行うようにする。

ご家庭へのお願い

- ①英語の単語を覚えるためには、時間もかかり、地道な練習が必要です。ご家庭でも励ましたり促したりといったサポートをお願いいたします。定期テスト直後にはワークの提出を課していますが、文法の定着のために、教材を有効に活用した学習を行えるよう、ご家庭でもご助言をお願いいたします。
- ②最近では映画、ニュース、音楽など、様々なメディアで英語に触れることができます。英語を通して世界に興味を持ってほしいと思います。

生活習慣や学習習慣に関する調査

■結果 ※ 斜線の部分については今回調査がなかった項目です。

① 生活習慣について	1年生		2年生		3年生	
	本校(%)	県(%)	本校(%)	県(%)	本校(%)	県(%)
朝食を毎日食べている(「どちらかといえば、してる」を含む)	92.6	94.2	92.7	92.7	95.2	94.3
普段、11時には寝ている(毎日、同じ時間に寝ている)	75.1	78.7	43.4	52.0	79.2	81.2
毎日同じ時刻に起きている(「どちらかといえば、してる」を含む)					91.2	93.8
平日2時間以上テレビを見る	49.3	54.1	53.7	52.2		
平日2時間以上ゲームをする	31.7	30.1	40.4	29.5		
平日2時間以上通話やメール、インターネットをする	23.6	19.0	30.1	25.6		
平日読書を30分以上している	44.6	39.9	32.4	36.0	32.0	28.1
学校図書館や地域の図書館を全く利用しない	24.3	31.7	47.8	36.9	58.4	47.1
新聞を読んでいる					31.2	42.4
地域の行事に参加している	59.4	67.9	40.5	57.6	42.4	53.7
新聞やテレビ、インターネットでニュースを見るか	83.7	77.3	90.4	90.5	31.8	36.0

■考察

≪1年生≫

【実態】

- ・ 「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムは概ねできていると言える。
- ・ 地域行事の参加については、半数は参加しているが、県平均と比べるとやや低い。
- ・ ゲームについては、長時間している生徒があるが、県の平均と同じくらいである。
- ・ 読書については、30分以上読書をしている生徒が県平均よりも若干高い。
- ・ 多くの生徒がテレビやインターネットでニュースを見ている。インターネットの利用はやや多い。

【対応】

- ・ 地域行事への積極的な参加・協力を促すよう、呼びかけを行っていく。地域のボランティア活動にも積極的に参加できる工夫を行う。
- ・ テレビやゲーム、就寝時間についての見直しを行い、時間についてルールづくりなど啓発を行っていく。
- ・ 朝読書や読み語りの時間の充実等を行い、本に親しむ時間が家庭でもとれるように、読書習慣をさらに身につけさせる。

≪2年生≫

【実態】

- ・ 朝食をきちんと食べている生徒の割合が多い。
- ・ 就寝時間が遅くなっている生徒の割合が多い。
- ・ 2時間以上ゲームや通話、メールインターネットをしている生徒が多くあり、県平均と較しても高い。
- ・ 図書館を利用する生徒が半数であり、読書の習慣が身につけていない生徒が半数をしめる。

【対応】

- ・ スマートフォン、携帯の使い方、利用時間、情報モラルなど利用方法やマナー等について十分な指導を行い、就寝時間等も含め望ましい生活習慣の確立につなげる。
- ・ 読み語りなど読書活動につながる工夫を続けていく、が多い。引き続き朝読書を徹底し、読書習慣の向上を図っていく。

≪3年生≫

【実態】

- ・ 自分で考え、自分から学習に取り組んでいる生徒は多い。
- ・ 食事や起床、就寝まで規則正しい生活が送れている生徒が多い。
- ・ 地域の行事に参加する生徒によくあてはまる割合が県平均の約半分と、大変低い数字になっている。

【対応】

- ・ 地域でのボランティア活動について情報を発信し、生徒の関心を高めていく。
- ・ 外国や地域行事に関して情報を発信し、関心を高めていく。

家庭学習に関する調査

■結果

② 家庭学習の様子	1年生		2年生		3年生	
	本校(%)	県(%)	本校(%)	県(%)	本校(%)	県(%)
	調査項目					
平日2時間以上勉強している(塾・家庭教師を含む)	34.0	22.6	30.1	25.6	28.8	26.5
学習塾(家庭教師)で勉強している	45.3	36.6	50.0	41.4		
自分で計画を立てて勉強している(「どちらかといえば、してる」を含む)	73.6	69.7	64.0	56.0	48.0	50.2
家で、学校の宿題をしている(「どちらかといえば、してる」を含む)	98.6	94.9	96.4	93.5	28.8	26.5
家で授業の予習をしている	64.9	54.5	97.2	81.2		
家で授業の復習をしている	69.6	64.6	92.7	89.3		

■考察

≪1年生≫

【実態】

- ・ 本校は県平均に比べ、予習、復習などの家庭学習に取り組んでいる生徒は多い。計画的に学習している状況もうかがえる。
- ・ 勉強時間がやや増加している傾向があるが、2時間以上の学習時間の確保を求めていきたい。予習、復習の内容を深めて、より効果的な内容にしていけるようにしていく。

【対応】

- ・ 学習の仕方が分からない生徒もいると思われるため、補充学習の時間の設定や自主学習を進める方法の指導を行う。
- ・ 進学指導やキャリア教育について考えさせる機会を設定し、学習に対する意識を高める。
- ・ 自己肯定感を向上させるような工夫を行い、自己実現を果たしていけるよう支援する。

≪2年生≫

【実態】

- ・ 2時間以上の家庭学習をしている生徒が、県平均より高い。今後は、更に学習への取り組み方を工夫させていく。
- ・ 宿題や予習復習等の時間がきちんととれている。与えられた課題はこなしている生徒が半数ほどである。

【対応】

- ・ 生徒が自分に必要な学習について計画、実行する家庭学習の充実や工夫に向けて、家庭と学校の連携を図っていく。
- ・ 将来への展望を考えた学習ができるよう、進学指導やキャリア教育をすすめていく。

≪3年生≫

【実態】

- ・ 家庭学習の習慣がきちんと身につく、計画的に予習、復習ができている生徒の割合が高く、宿題についてもきちんと提出する習慣ができている。
- ・ 家庭において、計画的に学習する習慣は十分ではない。

【対応】

- ・ 進路指導やキャリア教育を充実させ、学習時間の確保についての意識づけを行う。
- ・ より自主的、効率的に学習に取り組めるような指導方法、内容の改善を図る。
- ・ 将来の進路について、家庭と学校で情報交換を密に行い、夢や目標、自分を大切にすることを育てていく。

心の内面の様子

■結果

③ 心の内面の様子						
	1年生		2年生		3年生	
	本校(%)	県(%)	本校(%)	県(%)	本校(%)	県(%)
学校に行くのは楽しい(「どちらかといえば、そう思う」を含む)	93.2	93.0	72.8	86.8	70.4	82.7
先生はあなたの良いところを認めてくれている					68.8	80.8
学校の規則を守っている					96.8	95.7
いじめはいけないことだと思う					93.6	96.3
人の役に立つ人間になりたい(「どちらかといえば、そう思う」を含む)	98.0	96.6	91.9	95.1	91.2	95.2
将来の夢や目標を持っている(「どちらかといえば、あてはまる」を含む)	78.4	84.1	67.7	72.4	75.0	70.1

■考察

≪1年生≫

【実態】

- ・ 県平均よりは少ないが、学校に行くのは楽しいと思っている生徒は多い。
- ・ 「人の役に立つ人間になりたい」、「将来の夢や目標を持っている」の数値が高く、将来に対する展望を強くもっている生徒が多い。

【対応】

- ・ 中学校3年間の学習に見通しを持たせ、将来の夢や目標を意識させる。また、生徒が日々の授業や活動の意義を明確に伝え、中学校生活を充実したものにしていく。

≪2年生≫

【実態】

- ・ 学校に行くのは楽しいと思っている生徒の割合は高い数値であるが、県の平均を下まわっている。
- ・ 「人の役に立ちたい」と多くの生徒が思っている。しかし、夢や目標を持っている生徒については67%であり、意識は高いとはいえない。

【対応】

- ・ 進路指導やキャリア教育について、内容を充実させ、自己肯定感情を高める工夫を行い、生徒が将来の夢や具体的な目標を持つことができるようにしていく。

≪3年生≫

【実態】

- ・ 自己肯定感情は半数以上が良い状態にある。
- ・ いじめは絶対にいけないと思っている生徒が大多数であるが、やや下がっている。
- ・ 学校の規則を守ることにについては前向きである。
- ・ 「人の役に立ちたい」という気持ちは大多数の生徒がもっている。
- ・ 社会の出来事にはあまり興味は高くない。

【対応】

- ・ 学校行事などで生徒のよさを認め合うことやそれを発信し、学校や生徒に対してより多くの承認感を持たせる。
- ・ 学校行事等で生徒が活躍している様子を地域や保護者に発信し、生徒を承認するための連携を深めていく。
- ・ 進路学習、キャリア教育を充実させ、将来の夢や目標の実現に向け、何事にも主体的に取り組む態度を育む。
- ・ 生徒の進路実現に向けて、本人の意欲や希望を踏まえて、学校と家庭で情報交換など連携を深めていく。